
日本移民学会 第36回年次大会 プログラム

| 日時 | 2026年7月4日(土)・5日(日) |

| 会場 | 立命館大学衣笠キャンパス 恒心館 |

| 主催 | 日本移民学会 |

| 共催 | 立命館大学国際平和ミュージアム |

| 問い合わせ先 | 大会企画委員会 (iminkikaku@gmail.com) |

【大会企画シンポジウム】 歴史のなかの排外主義

近年、日本を含めた様々な国・地域で、移民をめぐる問題、あるいは移民という存在そのものが政治的な争点となり、排外主義的な動きも顕在化している。この意味で排外主義は極めて現代的なテーマとなっているが、他方でこれは歴史のなかで繰り返し問題になってきたことでもあり、決して「まったく目新しい」現象というわけではない。

ただしここで注意せねばならないのは、一口に排外主義といっても、時代や地域によって、その背景や特徴が大きく異なっていることである。その排外主義的な動きは、いかなる政治的・経済的・社会的文脈のもと、生じたのか。その拡大において、いかなる資源や言説が動員されたのか。ここでは、具体的にどのような人々が標的となり、いかなる事態が発生したのか。そして何が「問題」として認識され（あるいは認識されず）、どのような形でそれに抗する動きが展開したのか――。これらの点は、それぞれの事例ごとに、違ったものでありうる。

以上を踏まえ、本シンポジウムでは、北米、南米、欧州、そして日本という各地域の歴史的経験を取り上げ、排外主義という現象への考察を改めて深めていきたい。各事例を検討する中で、現代社会における排外主義の特徴も、もちろん逆照射されるだろう。また、排外主義的な動きが興隆する中で、移民研究はそれといかなる関係を取り結びうるかということも、議論できよう。登壇者同士のみならずフロアとも対話を重ねながら、移民研究が改めて排外主義と向き合う機会としたい。

大会企画委員長 藤浪海

【開催校企画シンポジウム】 出国者を包摂する送出国のグローバルな政治・文化を捉える

新型コロナの脅威を脱し、再活性化へ向かう人の国際移動とそれにともなう商業活動、旅游、留学、移民、送金の可視化に対して、各国で思いもかけなかった赤裸々な排外機運が起り、私たちに衝撃を与えている。その一方で、国外に拠点を移したグローバル・ディアスポラに対し、送出国の政府や地方自治体はその国内政治や文化に接続するためにおこなう政策や行政は各所で様々な展開を見せるようになったが、日本ではこの現象にほとんど関心が払われてきていない。移民研究には、国内移民集団に対して何が起こっているかという内側に向かう問題意識のみならず、グローバルな空間に在る移民へと目を向けて、歴史的に進行した／現在進行する現象を見る、外に向かう視点が必要である。

このシンポジウムは、移民の送出国が主権国家の領域を越えてグローバル・ディアスポラを包摂する政治・文化について、事例研究を通して議論するものである。報告とコメントの全体を通して、国家/中央レベルの政府や省庁、在外公館など上位機関が実施する“上からの政治の越境”を見ると同時に、“下から作用する政治の越境”として、ディアスポラ側の反応や、地方自治体や企業、教師・学生、社会活動家やキリスト教者、共産主義者といった非国家レベルの多様な政治行為主体の越境活動を見るものである。

まず3人の報告者が社会学、国際社会学、歴史学から、政治・文化の越境に関する研究事例をそれぞれ30分報告する。休憩を挟み、政治学、歴史学の立場からコメントしたのち（各15分）、討論はフロアに開かれる（15分）。

開催校 園田節子

【共催企画】
立命館大学国際平和ミュージアムの展示・資料室の無料閲覧

日付： 7月3日（金）・4日（土） 開館時間 9:30～16:30 （入館受け付けは 16:00 まで）
*5日（日）は休館日ですのでご注意ください。

「平和」を広義に捉えた大学附属ミュージアムです。地下1階の常設展示では、帝国日本の移民や現代の人権、差別問題を幅広くあつかい、選び抜いた文物には史料的にも価値があります。2階の資料室には、戦争や軍に関する戦間期・戦中の貴重な文献史料が充実。

- 申し込み不要。開館時間中に各自で自由にご訪問ください。
- 上記の日時のみ、受付で本プログラムをデバイス等で提示し、日本移民学会大会参加者であると告げると、入館料が無料になります。
- 学生ガイドスタッフとボランティアガイドスタッフが常設展示室の各所に常駐。是非ガイドと話し、展示への理解を深めてください。
- ミュージアム リーフレット



- 交通アクセス：Google マップの QR コード



■ 大会第1日目:7月4日(土)

9:00 ~ 16:00

受付 (恒心館 1階 入口エレベーター前)

10:00 ~ 12:30

開催校企画シンポジウム (恒心館 2階 KS209)

出国者を包摂する送出国のグローバルな政治・文化を捉える

司会と趣旨説明 園田節子 (立命館大学)

報告1 アンジェロ・イシ (武蔵大学)

「在外ブラジル人の組織化とエンパワーメントをめぐる官民の実践——代表組織の再編成と“アカデミック・ディアスポラ”に着目して」

報告2 李定恩 (フェリス女学院大学)

「グローバルサウスにおける移民コミュニティと越境政治——在フィリピン韓人会と『K イニシアチブ』を中心に」

報告3 芹澤隆道 (山口県立大学)

「戦間期における環太平洋地域の反帝国主義運動——米国へ渡った移民共産主義者に着目して」

コメント1 岸川毅 (上智大学)

コメント2 岡本直美 (岐阜工業高等専門学校)

全体討論

13:30 ~ 16:40

大会企画シンポジウム (恒心館 2階 KS209)

歴史のなかの排外主義

趣旨説明 藤浪海 (関東学院大学)

司会 山田亜紀 (玉川大学)

報告1 和泉真澄 (同志社大学)

「移民研究から考える北アメリカの排外主義——政治と政策と歴史をめぐる議論の整理への試み」

報告2 フェリッペ・モッタ (京都外国語大学)

「ブラジル排外主義の歴史を再考する——諸移民集団の事例比較から見える移民統治 (1889-1946)」

報告3 上野貴彦 (都留文科大学)

「排外主義と抵抗のナラティブにおける歴史的記憶——南欧にみる『私たちも移民だった』語りの可能性と限界」

報告4 李里花 (早稲田大学)

「『外国人女性』の民族化と女性化——戦後日本の性産業とアジア出身女性の表象」

コメント 塩原良和 (慶應義塾大学)

17:00 ~ 17:10

第2回日本移民学会奨励賞授賞式 (恒心館 2階 KS209)

17:10 ~ 18:10

総会 (恒心館 2階 KS209)

18:10 ~ 19:10

懇親会 (恒心館 2階 KS209、略式 (茶菓子のみ))

■ 大会第 2 日目:7 月 5 日(日)

9:00 ~ 15:00	受付 (恒心館 1 階 入口エレベーター前)
9:40 ~ 12:15	自由論題報告
13:00 ~ 15:35	ラウンドテーブル・自由論題報告
	※ラウンドテーブルのみ 15 時まで (昼食をとりながら参加可)

■ 大会第 2 日目:7 月 5 日(日)大会終了後

15:50 ~ 16:50	四役会議・理事会 (対面)
---------------	---------------

◆大会 2 日目午前:自由論題報告

9:40~12:15

A 会場 (恒心館 3 階 KS 306)		司会:長村裕佳子 (ノートルダム清心女子大学)
天野剛至 (愛知大学)	戦前カナダ・バンクーバーにおける移民地演劇活動—水戸愛川と真宗大谷派の関わり—	
武藤三代平 (北海道大学)	19 世紀末ニカラグア運河計画と自由党の殖民事業—対外認識の変容と出移民の政治構造	
大熊智之 (北九州市立大学)	戦前期における各県海外協会間の連携と移殖民の奨励	
高畑幸 (静岡県立大学)	明治・大正期の三保半島からの北米移民—帰国者による東京での酪農業を中心に	

B 会場 (恒心館 3 階 KS 304)		司会:李英美 (京都大学)
韓在賢 (京都大学 (院))	韓国系ニューカマー第二世代の能力とアイデンティティ:学校から職場への移行に着目して	
李海燕 (東京理科大学)	近代中国における国民国家形成とエスニック・マイノリティ統合—朝鮮族の場合 (1945.8-1955.12)—	
李仁子 (東北大学)	世代交代期における移民団体の持続と再編—民団東京都地方本部管下 21 支部の比較研究—	
金周炫 (カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (院))	サハリン朝鮮人帰還問題の再考—「樺太帰還在日韓国人会」の初期活動をめぐって	

C 会場 (恒心館 3 階 KS 303)		司会:物部ひろみ (同志社大学)
武井勲 (日本大学)	第二次世界大戦期の米国テキサス州におけるケネディ捕虜収容所と日本人収容者の実態	
柳澤幾美 (南山大学ほか)	第二次世界大戦期敵性外国人抑留所の記念化と連帯の構築—フォート・リンカン抑留所跡を事例として—	
山出裕子 (東京学芸大学)	日系女性ドキュメンタリーに見る世代と記憶—Fall Seven Times, Get Up Eight (2015) と The Ito Sisters (2017) における母娘間の記憶継承の比較を中心に—	
友寄元樹 (同志社大学)	戦争による分断:ニューカレドニアに渡った日本人移民の家族を事例に	

D 会場 (恒心館 2 階 KS 202) 司会：岡井宏文 (京都産業大学)	
アンディ ホリック ラムダニ (公益財団橋本財団ソシエタス総合研究所)	来日前に描かれる「日本」——インドネシア人来日希望者の期待構造
趙一諾 (東京科学大学 (院))	日本におけるアンチ公共圏の理論的再考——2025 年の日本の排外主義的言説を事例として
中川晋太郎	在日ムスリムの日本認識—アンケート調査とインタビュー調査に基づく実証分析—
フランシス・ペディ (名古屋大学)	敬意と疎外のはざまで——外国人労働者による日本社会への認識と統合をめぐる課題

E 会場 (恒心館 2 階 KS 203) 司会：グスターボ・メイレス (上智大学)	
澤田聖也 (大東文化大学)	大阪の沖縄ディアスポラの連帯と文化的抵抗—がじゅまるの会を事例に—
平良一史 (琉球大学)	オキナワン・フェスティバルのハワイ社会への影響—フェスティバル従事者の視点から—
木下昭 (大和大学)	沖縄—フィリピンの結節点：長崎移住教養所の果たした役割

F 会場 (恒心館 2 階 KS 204) 司会：Felipe Augusto Soares Motta (Kyoto University of Foreign Studies) ※F 会場での報告言語は英語です／The language used at venue F is English	
Giulia Pesa (Ritsumeikan University)	Decoloniality, Digital Public History, and Diasporic Heritage: The Ichariba Choodee Podcast and the Reclamation of Shimanchu Identity
Lyle Francis DE SOUZA (Kyoto Notre Dame University)	The Transpacific Archive of Things: Materiality, Memory, and the Textual Recovery of the 'Enemy Language' in Anglophone Nikkei Literature
HUANG Yu (Nagoya University)	Between Segregation and Integration: Social Networks and Cultural Participation of Intermarried Chinese and Japanese Immigrants in Mexico

◆大会 2 日目午後:自由論題報告

13:00~15:35

G 会場 (恒心館 2 階 KS 202)		司会: 大川ヘナン (大谷大学)
岩崎真紀 (松山大学)	サッカーが紡ぐディアスポラと「故地 (ホーム)」の絆—FIFA ワールドカップとモロッコ代表	
田中秀一 (JICA 緒方貞子平和開発研究所)	地球の反対側で腕を試す: ブラジルへ渡った日本人技術者たちのライフストーリー	
中澤英利子 (横浜市立大学)	ブラジルへの戦後の「花嫁」送り出しの背景—神奈川県に海外移住促進リーダーがいた時代	
吉田耕平 (早稲田大学)	クロス・オーヴァーする近隣集団—沖縄から南米四か国への移住にみる村人会間および母村の結びつき	

H 会場 (恒心館 2 階 KS 203)		司会: 劉昊 (和光大学)
高橋奈々 (中京大学 (院))	日本人学校教員の国際移動を成立させる制度的仕組み—海外子女教育振興財団の仲介機能の再定位—	
大野俊 (京都大学)	外務省による訪日援護が始まった『フィリピン残留日本人』の問題をいかに伝えるか—新聞連載、ノンフィクション本・学術書刊行などを通して	
酒井千絵 (関西大学)	移民博物館における展示の主体と対象を考える: 国際比較の視点から	
米野みちよ (静岡県立大学)	米国統治下フィリピンにおける松井家・大阪バザー・大阪貿易会社関連資料の再資料化	

I 会場 (恒心館 2 階 KS 204)		司会: Aki Yamada (Tamagawa University)
※I 会場での報告言語は英語です / The language used at venue I is English		
Cho Shoei (Rice University)	Precarious Belonging: Everyday Geopolitics of Chinese Immigrant Experiences in Japan	
Mi Moe Thuzar (Societas Research Institute, Hashimoto Foundation)	Beyond Labor Shortages: Workplace Inclusion, Social Integration, and Well-Being among Foreign Workers in Japan	
Ken Silverman (City University of New York)	Inheritability and Bifurcated Memberships among Japan's Children of Immigrants	
Luis Francisco Cabrera Osorio (Nagoya University)	Second-generation Nikkei Peruvians and The Instrumental Bypass	

◆大会 2 日目午後:ラウンドテーブル(昼食をとりながら参加可)

13:00~15:00

ラウンドテーブル A (恒心館 3 階 KS 306)

移民と〈混血〉を東アジアのディアスポラ・コミュニティから考える

モデレーター:野入直美 (琉球大学)

海外日系人の混血に関する議論に向けて——統計データの所在と調査課題

長村裕佳子 (ノートルダム清心女子大学)

ペルー日系社会における混血者～自己の経験と聞き取り調査から

小波津ホセ (慶應義塾大学)

台湾における中国大陸籍〈青年兵〉二世の生活世界——ある眷村女性理事長の生活史分析を通じて

張 龍龍 (北京工業大学)

ラウンドテーブル B (恒心館 3 階 KS 304)

グローバルな「農」の開発と戦後南米移民を問いなおす

モデレーター:大熊智之 (北九州市立大学)

辺境開発としてのアマゾン移民—アマゾン中流部におけるジュート生産を中心に

ファクンド・ガラシーノ (大阪大学)

アルゼンチンにおける花卉栽培の近代化と日本人移住地——辺境からの脱耕者の受け皿として

番匠健一 (社会理論・動態研究所)

戦後日本における南米・北米移民と開発—農業史の観点から

伊藤淳史 (京都大学)

ラウンドテーブル C (恒心館 3 階 KS 303)

アカデミア×コミュニティのトランスパシフィックな協働実践:北加日本文化センターの日米史料館を事例に

モデレーター:佃陽子 (成城大学)

「ローズバーグ時報」にみる日系人の生活と価値意識—計量テキスト分析による考察

駒込希 (清泉大学)

二言語資料のデジタルアーカイブ化から考える日系移民の記憶:横浜正金銀行資料の目録作成の実践から

稲葉あや香 (國學院大學)

カリフォルニア州における横浜正金銀行の現地日系銀行支援とその実態

出雲勇一郎 (立教大学)

金融危機下の在米日本人の政治行動——横浜正金銀行資料から

前田亮介 (東京大学)

横浜正金銀行の郷里送金票を通じたマイクロヒストリーの実践

佃陽子 (成城大学)

ラウンドテーブル D (恒心館 2 階 KS 209)

カナダと日本をつなぐパブリック・ヒストリーの実践

モデレーター：河原典史 (立命館大学)

はじめに－『グランドフォークス在留日本人記念写真帖』を読み解く－

河原典史 (立命館大学)

グランドフォークス～三尾村で暮らした前川家

三尾たかえ (カナダミュージアム)

グランドフォークス写真帖への想い

松宮哲 (滋賀・カナダ研究会)

日本に残った側からの移民史

福森健之

村尾勝次郎さんと村尾敏夫さん 一世代を越える日系カナダ人家族

岩永淳志 (和歌山県議会)

私的な物語を共有するカーパブリック・ヒストリーを生み出す場のオートエスノグラフィー

河上幸子 (京都外国語大学)

■ 交流スペースについて

参加者の皆さまの交流スペース (恒心館 3 階 KS305 教室)、および荷物を置くクロックとして使う教室 (恒心館 2 階 KS208 教室) をご用意しております。

KS305 の交流スペースには、会員の皆さまはご自身の論文抜き刷りを置いていただいて構いません。

KS208 は荷物の置き場としてご利用いただけますが、**貴重品の管理につきましては各自の責任**でお願い申し上げます。必要に応じて、どうぞご活用ください。

■ Wifi 使用について

ご自身の所属機関が eduroam 加入機関である場合、開催校で eduroam を使用できます。使用するには、①ご自身のご所属での eduroam のユーザーID と②所属機関のドメイン名、③パスワードで繋ぐことが可能です。事前に①～③を所属機関で確認していらしてください。開催校において、次の手順でオンラインに繋がります。

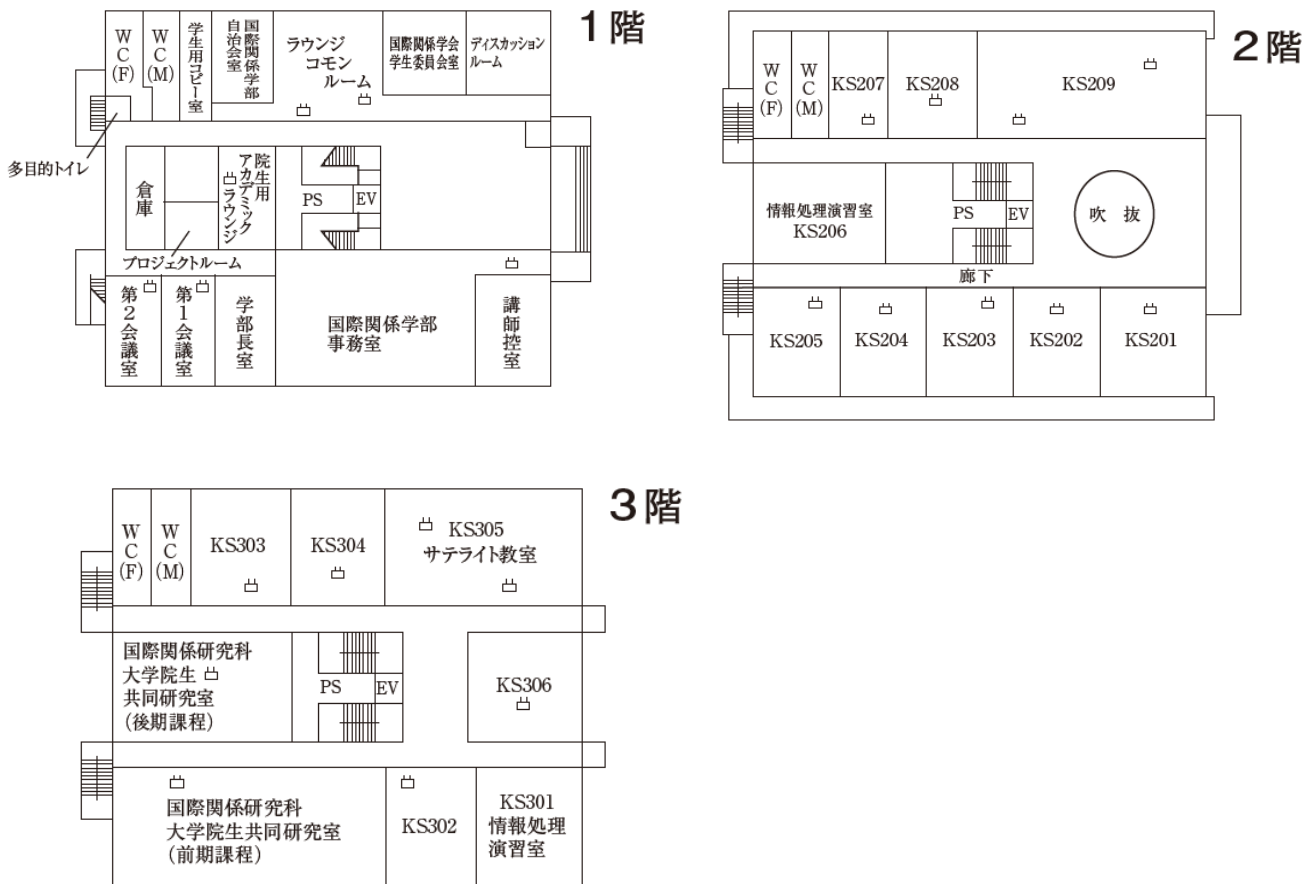
無線 LAN のネットワーク一覧から、SSID (ネットワーク名) 「eduroam」に接続。ユーザーID とパスワードの入力画面が表示されたら、以下のユーザーID・パスワードで認証。

- ・ユーザーID：所属機関でご利用中のユーザ ID@所属機関のドメイン名
- ・パスワード：所属機関でご利用中のパスワード

ただしセキュリティ上の理由により、開催校の学内 LAN や学内ネットワーク上で利用できるサービスへのアクセスはできません。

■ 会場マップ

1 階の受け付け向かって右の「ラウンジコモンルーム」は学生に管理権があるため、ご使用をお控えください。「ラウンジコモンルーム」内にあるドリンク自動販売機はご使用になれます。



■ 昼食・飲み物について

キャンパス内の食堂・生協は、土日は休業です。また当日は開催校（立命館大学衣笠キャンパス）で複数の学会が開催されます。事前に購入して、いらしていただくと安心です。

会場に最も近いコンビニエンスストアは、正門付近にあります（右のGoogle マップ QR コード）。周囲の喫茶店や食事処は、東門の周辺・上立売通り沿い・きぬかけの路沿い・西大路通り沿いにありますが、やや距離があります。日曜日は休日のお店もあります。

衣笠キャンパス内の各所、および会場の恒心館 1 階にドリンクの自動販売機がありますので、ご利用ください。



■ 書籍コーナーについて

恒心館 2 階 KS207 教室です。

■ 託児サービスについて

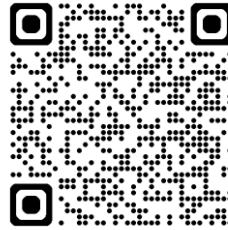
学会参加のために託児サービスを利用される参加者には、託児料の一部を補助する制度があります。詳細は登録フォームをご確認ください。

■ 大会会場について

立命館大学衣笠キャンパス恒心館（こうしんかん） 所在地：京都市北区等持院北町 56-1



【Google マップ QR コード】



【衣笠キャンパス内部建物マップ QR コード】

*上の地図の13番の建物が恒心館です。

■ 会場校への交通について

本大会の会場となる立命館大学衣笠キャンパスへは、JR 京都駅からバス（市バス 50 番 B2 のりば、立命館番 B2 のりば、205 番 B3 のりば）で約 35～55 分、タクシーは約 30 分を要します。

土曜日および日曜日のバスダイヤは、平日と比べて便数が少なくなっております。最寄りのバス停は「衣笠校前」「わら天神前」「立命館大学前」です。京都各所の駅からキャンパスへの交通については、右の QR コードでより詳しい大学の交通案内をご確認ください。



■ 駐車場・駐輪場

学外者用の駐車場は大学にはございません。大学の周辺に民間駐車場があります。自転車の駐輪場は、キャンパス内の各所にたくさんございます。

【第 36 回年次大会 大会企画委員】

藤浪海（委員長）、フェリッペ・モッタ（副委員長・自由論題報告担当）、大川ヘナン（ラウンドテーブル担当）、グスターボ・メイレス（ラウンドテーブル担当）、長村裕佳子（広告担当）、劉昊（広告担当）、山田亜紀（自由論題報告担当）

【第 36 回年次大会 開催校実行委員】

園田節子（責任者）、孫片田晶、石川亮太、今里基、李定恩、岡本直美